

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷 有限会社		
事業所名	たんぼぼ		
所在地	熊本県熊本市北区植木町宮原177番地		
自己評価作成日	平成27年11月10日	評価結果市町村受理日	平成28年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成27年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム横には広い畑があり、野菜の栽培や収穫が出来る。又、家族が面会に来所されても十分に駐車場が確保されている。 法人で10人乗りのワゴン車、及び他に2台の車両を所有している為、全員で外出が出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から12年を経過したホームはこれまでを振り返り、『人生の先輩である入居者に、地域との繋がりを大切に尊厳のある暮らしを支援する』を新理念として、意識を持ってケアにあつたている。経年と共に損傷する室内や物品の補充等入居者優先としての安全対策は安心した生活に活かされている。ひとつ屋根の下で職員と一緒に食事を楽しむ時間や、その日の食事号令担当(入居者)等当初から継続されている取り組み、に高齢になっても役割のある日常や安心して過ごせる環境であることが確認できた。代表者はホーム環境に職員自身を挙げ、職員の温かい眼差しのもと高齢化・重度化しても穏やかな生活を支援している。これまでの経験を活かし“たんぼぼ”の第二のスタートの機会として、更に地域の中のんびりとした日々を提供できるホームとして大いに期待したい。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	12年を経過し新しい理念である「私たちは、ご利用者様を人生の先輩であることを心して、ご家族様と地域のつながりを大切に、ご利用者様の誇りと培った能力や経験が発揮できる環境をつくり、尊厳のある暮らしを支援します。」に基づき利用者がゆったりとした生活空間の中でのんびりとした日々を送れる様、指導及び介護に取り組んでいる。	入居者の状況(経年による認知症の進行等)の変化や、職員体制の見直しを変革期と捉え、利用者中心のケアとして新たな理念を作り上げて半年、毎月のミーティングの中で事例を通じて認識を深めている。また、家族や運営推進会議による啓発に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の奉仕作業に参加、又、天気の良い日は、近所の店に買い物に行ったり、おやつを持って近くのお寺などに散歩に出かけている。その際、近所の方との交流や挨拶を行っている。	散歩がてらにお寺へ出かけると近隣住民がお茶を出してくださるほどに深く根付き、自治会に加入し、区費の支払いや奉仕作業(道路整備や側溝の清掃等)への参加等地域の一員として活動している。校区内の小学生との盛んな交流は入学式・卒業式・運動会・文化祭等に招待されるまでに関係が築かれている。ホーム周辺で農作業される住民からも入居相談されるほどに地域への啓発が行き届いている。	今年はホーム祭りが開催できなかったようであるが、昨年は司会進行や踊りのボランティアの他、高校生による山鹿灯籠おどりの披露や、地域住民も参加されるほどに大々的に広がりを見せており、次年度の開催を心待ちにしたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域住民の代表にも参加してもらい何か心配事や相談事等があれば気軽に相談下さいと働きかけている。又、近隣住人の方には挨拶や話しかけ等によりコミュニケーションが取れる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見は、サービス向上につながる様、極力、改善に向けて、取り組んでいる	常態化した運営推進会議は、2ヶ月毎の活動・入退居・事故及びヒヤリハットの報告をもとにした意見交換や増床への協力依頼等を行っている。また、地域委員からの質問事項を持ち帰り次回に回答をされる行政関係委員等この会議を有効に活用している。また、年1回は地元消防団との会議及び交流の機会としていることも特徴であり、役割分担を話し合う等防災対策の一環として生かされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターに必ず参加してもらい、事業所の実情や取り組み等を報告し、協力関係を取っている。	運営推進会議への参加や実地指導、介護相談員制度を活用しながらサービスに反映させる等協力関係を築いている。また、介護認定更新時に立会い、意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は絶対にしないとの認識を全職員が持ってケアにあたっている。	身体拘束廃止宣言をしたホームでは、新規職員への研修の中で特に言葉使い・苗字で呼ぶことを徹底し、毎月のミーティング時に報道による指導等を行っている。入居者個々の帰宅願望・外出傾向を把握し、玄関や裏口も開放している。また、日常の散歩により住民との顔見知りの関係が作られていることも、見守りへの協力として生かされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、介護従事者は、虐待は絶対にしない、させないの認識を持ち、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名、成年後見制度を活用している。後見人の方と利用者のケアについて相談しながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、家族や本人に充分説明を行い、契約書や重要事項説明書にもとづいて納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎日、利用者、職員が対話をし、利用者の要望等、何かあれば、反映できる様にしている。又、運営推進会議や家族面会時等においても意見を聞いている。	入居者と職員との関係構築に取り組み、会話の中で要望を引き出し、毎月の嗜好調査等によりケアサービスに反映させている。家族には毎月利用料を持参払いとし、意見や希望を聞き取りしている。開設時より苦情相談箱を設置しているが利用は無い。また、運営推進会議も問題提起の場と、ホーム内外の苦情相談窓口を明記し、契約時に説明している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議にて提案や意見を聞く機会を設けている。又、職員と食事を同じテーブルで取り、運営に関する意見を提案しやすい様に気がけている。	管理者は日々職員のコミュニケーションを図り、備品等の要望にはできる範囲で対応している。また、毎月のミーティングにより意見を聞き取りしている。職員用ロッカーを設置し、プライバシーを確保したり、外部研修への参加を推奨し、金銭的なバックアップを行う等働きやすい環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングや食事の際、または普段から、職員の希望や要望等、聞く様にし、職員が向上心を持って働けるよう勤めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員が増えた為、外部研修等に積極的に参加してもらい、職員としての資質の向上に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鹿本、菊池ブロックにてこの様な取り組みを行っており、必ず1名以上は参加し、地域同業者との交流をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、本人の希望や不安に思っている事等、聞く様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に至るまでにおいて、家族の希望や不安に思っていること等、聞く様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者は支援相談員としての業務経験もある為、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者本人と一緒に食事作りをしたり、同じものを食べたりして日常生活を共にし支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や来所された時に本人の状態や様子等、家族に報告し本人の状態をよく理解してもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人、友人等面会に来所された時、本人の居室でお茶等を飲みながら語られる様になっている。	家族や知人・友人・教え子の訪問の他、職員の送迎による馴染みの理髪店の利用や、神社仏閣への外出、河川敷での鴨見学等これまでの関係が途切れないよう支援している。また、ホームに居ても(植木温泉や山鹿灯籠祭り時)花火が見学できることも、入居者の楽しみの一つでもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昼の居間が、利用者同士が語らえ関わり合いが持てる場所になっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても継続的な支援が必要とされる利用者や家族には、かわりを持つ様になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や行動の中でその方の思いや希望を把握し、毎日楽しく送ってもらう様、努力している。	生活歴からの把握によるドライブや、入居者との日々の会話の中で、昔の話が出てくると掘り下げて聞き取りする等発語困難・意思疎通困難な状況も見られる中で、しっかりと話しかけるよう努めている。「車で出かけたがたい」等に随時対応しており、要望に柔軟に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の介護計画にも取り入れ、サービス利用の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状を総合的に把握し、介護計画を作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月ごとの介護計画を見直す際、家族、担当職員、本人も含めた担当者会議を行い、それぞれの意見や思いを反映し、介護計画を作成している。	毎月のモニタリングにより継続可否を見極め、半年毎には家族・担当職員とケアマネジャーとの話し合いの場を作り、主治医の所見のもと検討し、本人・家族の意向を踏まえたプランは詳細なサービス内容である。安心した高齢期を過ごしてもらいたいとの思いを具体的にプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子等、個別記録に記入し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、希望等に応じ柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム全体として、地域の民生委員や、駐在所、消防所、学校等と協力、連携している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人がかかりつけ医に定期受診や特診等により、適切な医療を受けられる様に支援している。	入居時に往診可能な協力医療機関であれば、ホームで対応可能なことや専門医の受診について家族の協力を伝えている。現在は全員がホーム近くの協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回職員が受診や送迎支援を行っている。その際は待ち時間が入居者の負担にならぬよう、事前に空き状態を確認している。家族には電話や面会時に定期受診や健康に関して報告を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名、準看護師1名が職員として在職している為、充分日常の健康管理や医療活用の支援が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時、サマリーのやり取りや情報交換等密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期となった時、家族にはそのつど早く説明を行い、かかりつけ医とも相談しながら連携している。	看取り体制や見取り介護の実施・内容を記した医療連携体制の指針を作成している。家族はホームが看取りまで支援することで安心されており、職員は研修と共に日々のケアが重要であり、入居者に尊厳をもって接する事を共有している。重度化や終末期の対応については、家族へ早めに説明や医師とも相談しながら今後の対応を話し合っている。昨年は100歳の方の最終をホームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時対応マニュアルの再認識や消防署より救急蘇生法指導訓練等を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練の実施や地元消防団との合同訓練ならびに災害時の協力依頼等をしている。	自衛消防や地元消防団との合同訓練を実施している。消防団との研修会では、入居者の車椅子使用状況や部屋の間取りを見てもらい有事の際の協力を依頼している。また、事故発生時の対応マニュアルを検討したり、消防署との訓練では救急救命の訓練も行われている。台風の接近時は事前対応として、インスタントなどの非常食、ランタンライトの準備や本年は発電機の購入を行っている。	ホーム職員が地元消防団に所属していることは心強く、今後も日々の安全管理や地域との協力体制が継続されていくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者に対して、丁寧語で話す様に、又、誇りやプライバシーを損ねない様な声かけをしている。	今年度は『人生の先輩である入居者に尊厳のある暮らしを支援する』ことを新理念として掲げ、全職員が意識を持って業務にあつたている。呼称は苗字にさん付けを徹底し、職員の守秘義務についても代表者による指導やパンフレットにも秘密保持が記載されている。また、個人情報の使用は重要事項説明書を通じた承を得、面会者もプライバシーに配慮し日誌に記入している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に午後の時間帯に入居者の中に職員が入り、対話を持つ様にして入居者の思いや希望を表せる様、働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	アセスメントに基づいて、1人ひとりの介護計画を作成し、その人らしい生活が出来る様、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時は特に本人の好まれる身だしなみの支援を行い、理容、美容も本人の希望どうりの支援を行っている。判断等できない方については、職員が声かけを行い対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を聞き立てている。又、食事作りや、片付け等、入居者の出来る範囲で参加してもらっている。	入居者に喜んでもらえる食事提供に努めており、食べたいものを聞き取ったり、1・15日の赤飯、いなり・巻き寿司などの行事食、手作りおやつなども好評である。また、毎食に汁物を付けることで咽越しよく食が進んでいる。身体状況からミキサー食やお粥を準備し介助を必要とする方もおられるが、職員も同じ物を一緒に摂っている。野菜の皮むきや干し柿・梅干しなどの保存食に取り組んだり、庭先には手作り干し椎茸がザルに並んでいた。	調理経験豊かな職員の配置により入居者や職員にとっても更に食事が心待ちの時間となっている。「いただきます！」「ご馳走さまでした！」入居者の号令で今後も楽しい食事支援が展開されていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人によってカロリー摂取量を調整している。糖尿、高血圧者にたいしても配慮を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きの声かけを行い、自分で出来ない方については、介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄に介助を要する人は、定期的にトイレに誘導し、排泄チェック表を作成している。	布下着やリハビリパンツ、紙おむつなど個々に応じた排泄用品を使用し、声かけや誘導により可能な限りトイレでの排泄支援に努めている。失敗のない排泄は本人の自信と合わせ、家族の負担軽減にも繋がっている。夜間のみポータブルトイレを使用される方もあり、トイレ同様清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維や乳製品を取り入れ、レクレーションでも体操等を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴者、個人個人に合わせた入浴を行っている。	入浴は午後からを中心に、身体状況に応じ2名介助で週3回の支援が行われている。夏場はシャワー浴を取り入れながら清潔保持に努めている。入浴の順番は交替としており、2名入浴ごとに湯を入れ替え、ゆっくり湯船に浸かってもらっている。毎年代表者に縁のある恩師より差し入れされる柚子で冬至のイベント湯が楽しまれている。	以前実施されていた『朝風呂』は好評であったようである。現在は、午後からの入浴が中心であるが今後は職員の体制を整え、時には『朝風呂の日』を設けてはいかかであろうか？楽しみな入浴に繋がっていくと思われる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に個人の行動に関して制限はしていない。個々の生活習慣やその時々状況に応じて生活されるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診後は必ず、処方された薬について申し送りを行い、薬の目的や副作用の確認についても充分行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自ら自分の役割を見つけ出したり、こちらからお願いしたのが、いつの間にか、その人の役割になったりと、入居者全員が何らかの役割を持っている。敷地内に畑があり、入所者との活用も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等で外出する機会を充分つづけている。	おやつを持って季節の花見学に出かけたり、個別支援で散歩や買い物、自宅近くの河川にカルガモの餌やりなど可能な限り希望に応えている。寒い季節でも陽当りの良い玄関先で日光浴の時間が持たれている。また、地元小学校PTA主催のどんどこや見学や、毎月家族との外食を楽しまれる方など、地域や家族の協力を得た外出も行われている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、入居者、1人ひとりの希望や力量に応じて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話等希望があれば、そのつど対応しており、ダイヤルを回したり、話の内容を伝えたり、必要があれば介助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	造りが一般家庭と変わりなく、物品や、装飾も家庭的である。	入居者が居心地良く過ごせるよう、衛生面や不快感などにも配慮しながら家庭的な生活環境を心がけている。食事やレクリエーションなど日中の殆どを過ごすリビングは決して広いスペースではないが、職員のサポートによって9人の入居者が和気あいあいと過ごしている。また、段上がりの畳の間は、昼食後に横になったり、洗濯物たたみ、小学生とのふれあい交流でステージとしても活用されている。管理者は職員の言葉や対応も大切な環境である事を機会あるごとに伝えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に横になってくつろげる場所があり、入居者同士、自由に過ごされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用されていた家具や食器、道具等の持ち込みを進めている	これまで家庭で使用していた物が居室にあることで安心に繋がる事を伝えている。車椅子利用や歩行が不安定など入居者の身体状況から、スッキリと安全面にも配慮しながら居室環境が作られている。季節ごとの衣類交換は家族に依頼しているが衣類購入も含め、ホームでも柔軟に対応しながら入居者が好みに応じた衣服で日常や就寝ができるように努めている。今年度は全居室のエアコンが新調され、部屋で過ごす時間も更に心地よいものになっている。	居室によっては大量の排泄用品が置かれているが、収納方法や保管場所を検討することも必要と思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の能力を十分に活かし、自分で出来る事は自力で困難な場合は共同で行う様、支援している。		